

ごめんなあ、母さん

八十六歳の母に

「爪、切ってくれないかい」

と頼まれた

「それくらい自分で切れよ」

つっけんどんな言葉が口をついた

言ってしまったから

しまったと思った

「後で爪切り持ってくるから」

やっとの言葉だった

パツチン、パツチン

老いた乾燥した音だった

「少し柔らかくしてから切るかあ」

温かなタオルの上から

老いた母の手を握った

「痩せたなあ」

なぜ始めから優しい言葉を

掛けられなかったのだらう

